

## 0990 | プロダクトデザイン II

4 単位（通信授業 2 単位、面接授業 2 単位）

田中克明教授、河村要講師、福田弘講師、桜井隆樹講師、渡辺衆講師

## 授業の概要と目標

プロダクトデザインでは機能と用途を根幹とした道具の具体的な形態の造形と同時に感性に応える美しい造形も求められる。「プロダクトデザイン II」では道具の用途や構造、寸法と密接に関係する手の機能、動作と道具の関係を理解し、用途に適った使い勝手を探索する手法とプロダクトデザインとしての形態の創造と表現方法の修得を目標とする。

## 課題の概要

- 通信授業課題 1 [手の機能と動作／道具の関係を考察]
  - ・道具の機能と用途と形態の関係を考察しレポートする。
  - ・道具の機能と手の動作の関係をスケッチで表現する。
- 予習課題 [ドアノブの調査レポートとデザイン案の作成]
  - ・ドアノブの形状、寸法、手の動作と使い勝手および造形との関係について調査、分析しレポートする。
  - ・ドアノブのアイデアスケッチと概略図面の作成。
- 面接授業課題 [ドアノブのデザインとモデル制作]
  - ・面接授業ではドアノブ操作性、認知性、快適性を探索し、スケッチによるイメージの表現からモデル制作までの具体的な形態にまとめ上げるプロセスとスキルを学ぶ。
- 通信授業課題 2 [三面図と等角投影図から立体表現スケッチを描く]
  - ・プロダクトデザインの形態を構成する要素とその形態の成り立ちを理解し、立体を造形するプロセスとスケッチ、図面での表現方法を学習する。
  - \* 詳細は学習指導書『プロダクトデザイン I・II 平成 29 年度』を必ず参照すること。

## 授業計画

## [通信授業 1]

- ・機能の異なる道具を使う手の様々な使用状態をスケッチで表現する。
- ・道具の使い勝手を評価しレポートする。

## [予習課題] ※スクーリング時に持参すること。

- ・ドアノブのデザインを形状、寸法、手の動作と使い勝手および造形との関係について調査、分析のレポート。
- ・ドアノブのデザイン案スケッチと概略図面の作成。

## [面接授業]

- ・予習課題を基に発泡ウレタンでラフイメージモデルを制作してから、決定モデルの制作を行う。

第 1 日 前提講義・課題説明、予習課題発表・指導、イメージラフモデル制作

第 2 日 イメージラフモデル制作、決定モデルの概略三面図の作図

第 3 日 モデル制作

第 4 日 モデル制作、プレゼンテーション、講評

## ○LP オンラインプラス [準備] —面接授業事前説明動画配信

Web キャンパス学生メニューの【動画視聴】にて面接授業の事前説明動画を配信する。

- ・オンラインプラス [準備] では、面接授業を受講する前の学習として、プロダクトデザインとしての立体造形の基本要素と感性に応える造形イメージの創作について解説する。

## [通信授業 2]

- ・三面図から等角投影図と立体表現スケッチを描く。
- ・等角投影図から三面図を描く。
- ・身の回りのプロダクト製品を基礎形態の構成として捉え、三面図、等角投影図、スケッチで表現する。

## 成績評価の方法

通信授業と面接授業の総合評価とする。

---

|            |   |
|------------|---|
| 履修条件及び履修年次 | [履修年次] 2年次<br>[履修条件] 「プロダクトデザインI」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。<br>[備考] 工芸工業デザイン学科 生活環境デザインコース指定科目<br>3年次編入学生は必修ではないが、履修することが望ましい。<br>オンラインプラス（Web上で行う面接授業補助プログラム）を受講する場合は、インターネットに接続できる環境が必要となる。 |
|------------|---|

---

|     |  |
|-----|--|
| 教材等 | 教科書：横溝健志、田中克明他『プロダクトデザイン』（武蔵野美術大学出版局 2002年）<br>横溝健志、小石新八編『ドローイング・モデリング』（武蔵野美術大学出版局 2002年）<br>田中克明監修『プロダクトデザインの発想』（武蔵野美術大学出版局 2006年）<br>学習指導書：『プロダクトデザインI・II 平成29年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2017年） |
|-----|--|

---

|     |   |
|-----|---|
| その他 | <ul style="list-style-type: none"><li>・面接授業には教科書『ドローイング・モデリング』と『学習指導書』を必ず持参すること。</li><li>・面接授業において、立体造形のための素材として発泡ウレタンを使用するので、化学物質に対するアレルギーがある学生は、その旨、承知した上で研究室に申し出ておくこと。</li><li>・面接授業の作業に際し、発泡ウレタンの細かい粉末で汚れても構わない服装を考慮すること。</li></ul> |
|-----|---|